オーディオ実験室収載

アナログ再構成後の活用(5)
－ベートーベンを聴く(4)－

１．始めに

前報(4)に引き続き、ベートーベンのアナログ盤を試聴していきます。

２．アナログシステムについての改善の試聴方法

試聴は LINN LP-12 のシステムでアクセサリー関係も最新情報に基づいて実施し、要時 Garrad 401 のシステムも加えます。最新の状況は、再生経路と変更点 4 に要約しています。なお、この報告からは、バイワイアリングのスピーカーケーブルにケーブルチューナーが装着されています。

今回取り上げる盤は、前報と同じベートーベンのチェロソナタのアナログ盤です。

CBS SONY 32AC-1216

チェロソナタ 3 番イ長調作品 69

チェロソナタ 5 番イ長調作品 102-2

堤剛（チェロ)、　ロナルド・トゥリーニ（ピアノ）

MASTER SOUND シリーズの 1980 年のディジタル録音で、チェロにはノイマンのマイクが、ピアノにはショップスのマイクが、使用されています。

３．アナログシステムについての改善結果の試聴結果

日本のスタディオでの日本人による録音で、初期のディジタル録音ですが、MASTER SOUND と称する意気込みは感じられます。現在では大家となった堤剛も若々しく意欲的に、豪快な演奏です。

４．まとめ

アナログシステムの再構成の結果、初期のディジタル録音の盤でもその味わいを発揮できるようになりました。

以上